

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

図工の時間にかいた絵が、ろう下にはり出された。その中で、同じはんの春香の絵にだけ、金色の紙がはられていた。市の絵のコンクールに出すことに決まったしるしだ。

「すごいね、春香ちゃん。」

みんなが春香のまわりに集まる中、わたしは自分の席から動けなかった。わたしだって、絵には自信があったのだ。

「春香は、たまたま運がよかっただけだよ。」

帰り道、わたしはつい、そんなことを言ってしまった。いっしょにいた友だちは、何も言わなかった。次の週、わたしは絵の具を返しに、放課後の図工室へ行った。すると、だれもいないはずの部屋に、春香がいた。春香はつくえの上に何まいもの紙を広げて、同じ木の絵を何度もかいていた。どの紙にも、葉の色を少しずつ変えてみたあとがあった。

「何をしているの。」

「次のコンクールに向けて、練習。木の緑って、おずかしいんだよね。」

春香は、絵の具で緑色になった手を見せて、はずかしそうにわらった。

わたしは、何も言えなかった。運がよかっただけなんかじゃない。春香は、わたしの知らないところで、こんなにたくさんかいていたのだ。

「ねえ、わたしも、いっしょにかいていい。」

気がつく、わたしはそう言っていた。

(この問題のための書き下ろし)

問一 春香の絵にはられた金色の紙は、何のしるしてしたか。「くしるし」につづくように、本文から二十字まで書きぬきましょう。

[illegible]

問二 「わたしは自分の席から動けなかった」とありますが、このときのわたしの気持ちとして、いちばんあうものを選びなさい。

のを、ア〜ウから一つえらびましょう。

ア 春香の絵のあまりの上手さにおどろき、声も出なかった。

イ 絵には自信があったので、春香の絵が選ばれたことがくやしかった。

ウ 自分の絵だけがはり出されていなかったの、悲しかった。

問三 「わたしは、何も言えなかった」とありますが、それはなぜですか。四十五字までで書きましょう。

[illegible]

問四 最後の「わたしも、いっしょにかいていい。」という言葉から分かる、わたしの気持ちの変化として、いち

ばんあうものを、アゝウから一つえらびましょう。

ア 春香に勝ちたい気持ちから、もう絵をやめたいという気持ちに変わった。

イ 春香をうらやむ気持ちから、自分も春香のように練習したいという気持ちに変わった。

ウ　春香をかわいそうに思い、練習を手伝ってあげたいという気持ちに変わった。